



本日は 第2955回 例会
プログラム
年次総会
No.2777 12月3日(木)

次週以降の予定

12月10日(木) 忘年会(夜間例会)
12月17日(木) 半期を省みて
12月24日(木) 休会

第2954回 例会報告

2015年 11月26日(木)

会長挨拶



本日11月26日は良い風呂の日です。他に日本ペンクラブ結成の日とか考古学者のカーター博士がツタンカーメン王の墓を発見した日でもあります。お風呂と言えば温泉ですが、特に効能のある北海道の温泉というと35年前に調べたときは、定山溪温泉病院の温泉、二股ラジウム温泉、道北の豊富温泉でした。思い出すのは、35年前、親父の還暦祝いに二股ラジウム温泉2泊3日のペア旅行券をプレゼントした時の話ですが、二股ラジウム温泉は長万部にありまして昔から有名な湯治場でした。髪の毛がゴワゴワで立っていて身なりの良い路上生活者のような風体で夫婦並んで帰ってきました。父の話だと当時は真水のお湯がなく、シャンプーも効かなく温泉成分で髪の毛がゴワゴワになり、テレビもなく食べるものも自分で持って行かなければならぬ酒もない二度と行きたくないと言って心持ち顔がやつれてるように見えたが、ネットで調べてみると今は宿泊プランが色々あって食事がつくみたいです。今日は指名委員会がありますので、指名委員会構成員の皆様を除く皆様は温泉に行ってリフレッシュしてはいかがでしょうか。

また、今日は10月1日に納入しました乗馬スロープについてそらぶちキッズキャンプの佐々木健一郎さんがゲストでお見えになっていますので、あの乗馬スロープがどのように利用されているのかの報告を楽しみにしておりますので、後ほど宜しく願いいたしまして会長からの挨拶といたします。

幹事報告



①. 12月3日(木)に第12回定例理事会及び第4回クラブ協議会を開催します。2月に担当例会がある委員長は事業実施計画書を提出してください。また、3月以降担当例会がある委員長は下期活動計画書として予定事業の提出をしてください。
②. 本日指名委員会を午後6時からホテルスエヒロ3階フレスコにて開催します。

委員会報告



親睦活動委員会 本間 保昭 委員長
●12月10日(木) ホテルスエヒロで忘年会を開催します。ビンゴ等の余興を用意していますので、多数のご参加をお願いします。
●1月7日(木) ベルコで新年会を開催します。こちら多数の参加をお願いします。

会員情報



山口 恵子 会員

の30周年にあたり、多数の来店・お祝いをいただきありがとうございます。今後ともよろしく願います。

先週のプログラム

◇そらぶち支援特別委員会担当例会◇

ーゲスト卓話ー



そらぶち支援特別委員会

鷲尾 昌法 委員長

本日はそらぶちキッズキャンプの現状について事務局長の佐々木様からご講演をいただきます。ロータリークラブでは過去数年にわたり、さまざまな支援をしてきました。木道・ツリーハウスなどロータリークラブから寄付をさせていただいたものもありますので、ご講演の中で触れていただけたらと思います。

佐々木様のご略歴を紹介いたします。

1976年宮崎県生まれの大阪育ちであり、学生時代はサッカー三昧であったとのこと。趣味は庭園・公園・自然の中でゆっくりと過ごすことだそうです。大阪府立大学大学院緑地環境計画研究室を修了され、大阪の造園コンサルタントとして病院の庭や公園の企画・設計に携わっておられました。10年前からそらぶちキッズキャンプの設立に参画され、2007年5月には滝川に移住されました。現在はアジア初の難病の子どもの医療ケア付きキャンプ場の運営管理を行いながら、広報などのため月に1週間ほどは東京で戦略会議や企業訪問などを行っておられます。また、日本青年会議所主催の人間力大賞2010で準グランプリを受賞されました。

「そらぶちキッズキャンプの現状について」



公益財団法人そらぶちキッズキャンプ
事務局長 佐々木健一郎様
(キャンプの現状)

丸加高原に16ヘクタールの敷地があります。この敷地に建物を建てて宿泊・食事ができるようになりました。森の遊びについては滝川ロータリークラブのご支援をいただき、子どもたちを喜ばせる施設が増えてきました。年間10回のキャンプを開催できるようになりましたが、将来的には年間15回、20回のキャンプを開催できるようにしたいと考えています。地元では、滝川市の子ども発達支援センターの子どもたちが夏と冬キャンプをしています。

(乗馬用のスロープについて)

宮崎会長に車いすの子どもが利用できる乗馬用のスロープをお願いし、設置することができました。このスロープを寄贈していただいたことで、車いすの子どもが安全に馬に乗ることができるようになりました。馬に乗った子どもはとても楽しんでくれていました。(シリアスファンチルドレンズネットワークについて)

シリアスファンチルドレンズネットワークは、故ポール・ニューマン氏が米国に創設した、難病の子ども達とその家族のためのキャンプ場の世界的なネットワークであり、そらぶちキッズキャンプはその第16番目のアジアでは最初の公認キャンプ場となりました。

(子どもたちの病状について)

厚生労働省が小児特定慢性疾患として指定しているのは514種類の病気です。これからも増えていくでしょうし、まだ認定されていない病種というのもあります。小児がんはその中でも人数の多い病種ですが、病気によっては全国で数人ですとか、1人しかいないという病種もあります。子どもたちもそうですが、そのご家族もとても辛い思いをされています。特に親よりも先に亡くなる可能性のある子どもについては優先してキャンプに呼びたいと考えています。10年間活動してきましたが、キャンプに来た子どもの中で既に15人もの子ども達が亡くなっています。そのような子どもたちが自然の中で1人じゃない、仲間がいるという思いを持ってもらうことや、かけがえのない思い出を作ってもらうように活動しています。

(子どもたちの受け入れ体制について)

難病にかかっている子どもは全国に約20万人いると言われていています。そらぶちキッズキャンプはそのすべての子どもたちを対象としています。ただ、施設のキャパシティや人的体制によって安全に受け入れられる人数・回数としています。

キャンプの開催を決定すると、がんの子ど

もを守る会や小児科学会などに募集チラシを配布し参加者を募っている。応募者が多い場合は症状が重い子どもをなるべく招くようにしている。今後は体制をさらに整え対応できる病種を増やしたり、重い症状の子どもを招いたりすることができるようにしたいと考えています。

食事については、薬の影響によりアレルギーがある子ども、刻み食や流動食でなければ食べられない子ども、口から食事を摂ることができない子どもなどいろんな子どもが参加するので、栄養士などが子どもの事情に応じて対応してくれています。

(医療体制について)

常駐の看護師は子どもたちがキャンプに参加する前に子どもたちの病状を正確に把握するための作業を行っています。これによって、子どもたちの病状が急変することがないよう事前の準備をすることができています。キャンプの中で不測の事態が発生した場合、滝川市立病院と提携を組んで医療処置を行うことができるようにしています。そらぶちキッズキャンプができてからは、事前の準備が十分に行われているので、医療機関で緊急の措置を受けるような事態は起きていません。

(そらぶちキッズキャンプの将来像)

現在16ヘクタールの敷地のうち3分の1ほどしか利用していない状況です。今後は16ヘクタールすべての敷地を利用して森の中に子どもたちが楽しめる仕掛けをたくさん作りたいと考えています。

今後ともそらぶちキッズキャンプへのご支援ご協力をお願いいたします。

ニコニコBOX

鷲尾 昌法会員

担当例会を終えて!!

11月22日の滝川吹奏楽団定期演奏会に700名のお客様にご来場いただき、無事終了いたしました。皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

会長／宮崎 英彰
幹事／渡辺 浩司
編集／クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30

例会場●ホテルスエヒロ

事務局●ホテルスエヒロ 7F

〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16

TEL (0125) 22-3344

FAX (0125) 24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。